

宇宙について

第 章 インドの天地創造の神話

初めに宇宙は水であった。水と波だけがあった。
水は増えようと努力した。
アパハ アパハ サリラ サリラ
苦行を重ねて熱を発生し金の卵を生んだ。
金の卵は一年の間、水の上を浮き漂っていた。
一年の後、一人の男が生まれた。
それが創造主 プラジャー・パティであった。
卵は創造主を支えて漂った。
彼は創造しようと欲して苦行した。
彼は金の卵を割った。
そして彼は言った。ブフル！
それは大地となった。
又、彼は言った。ブフヴァー！
それは空となった。
又、彼は言った。スヴァール！ 世界！
かくて地と空と世界がなった。

(註) アパハ=水 サリラ=水波 プラジャー・パティ=創造主 ブフル、ブフヴァー、スヴァールは「三明」または「三聖語」と称され、その三語の五音節が五つの季節(春・夏・雨期・秋・冬)となった。

第 章 東アジアの天地創造の神話

(男声)

古に天地未だ割れず、陰陽分れざりしとき、渾沌れたること鶏子の如くして溟滓にして牙を含めり。其れ清陽なるものは、薄靡きて天と為り、重く濁れるものは淹滞めて地と為るに及びて、精妙なるが合へるは搏り易く、重く濁れるが凝りたるは竭り難し。故、天先ず成りて地後に定まる。然うして後に、神聖、其の中に生れます。

(女声)

昔、天地は混沌として、陰陽の別もなく、まんまるな卵子の黄味のようなものでした。つまり、明るい部分はまもなく天空となり、暗く重い部分はしばらく経って地球になった、ということ。さて、天地開闢のはじめに国土は水の上に浮かんでいた。まるで魚が遊んでいるように。やがて天地の間に一つの物が生まれた。葷牙のようでそれが神であり、人であった。(『日本書紀』より)

第 章 メソポタミアの天地創造の神話(旧約聖書)

善悪を知るのは木は汝その実を食ら天地創造の由来はこれなり

ヤハウエの神、地と天を創り給える日に 野の全ての木は未だ地にあらず 野の全ての草は未だ生ぜざりき

そはヤハウエの神、雨を地に降らせたまわず、又、槌を耕す人なければなり

されど、霧 地より昇りて土の面をあまねく潤したり

ヤハウエの神 土のちりをもって人を作り、命の息をその鼻に吹き入れたまえり ひと すなわち生けるものとはなりぬ

ヤハウエの神 見るに麗しく食らうによき諸々の木を土より生ぜしめ 又 命の木及び善悪を知るの木を生ぜしめたまえ 川 エデンより出でて園を潤し かしこより分かれて四つの源となる ピソングボン ヒデケル ユフラテ これなり

ヤハウエの神 そのひとをとりて彼をエデンの園におき そのひとに命じて言いたまひけるは

「園の全ての木の実は汝心のままに食らうことを得されどうべからず 汝その実を食らう日には必ず死ぬべければなり」

(『旧約聖書』より)

第 章 神の探究について

Regnum conctipotentis

全能者の王国では一切は神の生命

Divina vita

ただ神だけがそこに住む

不死性、神に於ては万物は神そのもの

汎ゆる悦楽の喜びとその終わりがある

Minimum maximo coindicit

最小と最大は一致する

coincidentia oppositorum

神は反対の一致

造り主であり造られた物でもある

それを知るのは

docta ignorantia

知ある無知

兄弟たちよ、神の名の根拠について述べよう

栄光を介して明らかな認識へと歩み入るため

あなたの神を探し求めるために。

(ニコラウス・クザーヌス)

第 章 山田の「おらっしゃ」

A 聖母まりあの連禱

れみすかれす どみの てびた のすとりろ てに ぼろんと のすとりろ

Ne remiscaris Domine delicta nostra vel parentum nostorum,

にき びにたて まつ で ぺかてす のすとりろ どめ ふうす のすとりろ

ni que vindictam sumas de peccatis nostris. Domine Deus noster.

きりえ れんず

Kyrie eleison

きりすて れんず

Criste eleison

きりすて あおでの

Chritse audi nos

きりすて じゃおで のびす

Christe exaudi nobis

まてる で せれす ふうす

Pater de caelis Deus

みじりめん のびす

Miserere nobis

ひりうでんとろ むんでうす

Fili Redemptor mundi

みじりめん のびす

すべりと さんちり ふうす

Spiritus Sancte Deus

みじりめん のびす

さんた ちりすたさんた ふうす

Sancta Trintas unus Deus

みじりめん のびす

さんた まりや

Sancta Maria

おら ぶろのべす

Ora pronobis

さんた だい じにち

Sancta Dei Genitrix

おら ぶろのべす

さんた びるご びるじん

Sancta Virgo Virginum

おら ぶろのべす

まてる きりすて

Mater Christi

おら ぶろのべす

まてる ににめ ぐらッシャ

Mater divinae gratiae

おら ぶろのべす

まてる ぶりんしま

Mater purissima

おら ぶろのべす

まてる かすてんしま

Mater castissima

おら ぶろのべす

まてる あまべりんしま

Mater amabilis

おら ぶろのべす

まてる あぐにらべす Mater admirabilis	おら ぶろのべす
まてる くりやとれす Mater Creatoris	おら ぶろのべす
まてる さるわとれす Mater Salvatoris	おら ぶろのべす
ぶるご ぶろでてるしま Virgo prudentissima	おら ぶろのべす
ぶるご ぶろでやんだ Virgo veneranda	おら ぶろのべす
ぶるご ぶろでかんだ Virgo praedicanda	おら ぶろのべす
べくろむ ぶすてんしゃ Speculum justitiae	おら ぶろのべす
ぜで さびえんしえん Sedes sapientiae	おら ぶろのべす
こぞ のすとろ ろてま Causa nostrae laetitiae	おら ぶろのべす
うあ すべすとあれあ Vas spiri	おら ぶろのべす
あざ のだべす Vas honorabile	おら ぶろのべす
あぜんしゃえ でんしヨね Vas insigne devotionis	おら ぶろのべす
ろざ みすてりか Rosa mystica	おら ぶろのべす
とりす だびでか Turris Davidica	おら ぶろのべす
と むりョうぶるむ Turris eburnea	おら ぶろのべす
どむ ざぶりな Domus aurea	おら ぶろのべす
ひでん るさるか Foederis arca	おら ぶろのべす
じゃんの あせる Janua caeli	おら ぶろのべす
すすてら またてるか Stella matutina	おら ぶろのべす
さるじえんのいえんろ Salus infirmorum	おら ぶろのべす
れじんなかとろ Refugium peccatorum	おら ぶろのべす
こんすらてるしゃえとろ Consolatrix afflictorum	おら ぶろのべす
おすいりョうの おん きりいけじゃんの Auxilium Christianorum	おら ぶろのべす
れじんにヤ あんにヨろろ Regina Angelorum	おら ぶろのべす
れじんな ばちりある Regina Patriarcharum	おら ぶろのべす
れじんな ぼにえたる Regina Prophetarum	おら ぶろのべす
れじんにヤ あぼすとろ Regina Apostolorum	おら ぶろのべす
れじんにヤ まるてろ Regina Martyrum	おら ぶろのべす
れじんな どとろ Regina Doctorum	おら ぶろのべす

れじんな こにえそろ

Regina Confessorum

おら ぶろのべす

れじんにヤ びるじヨんの

Regina Virginum

おら ぶろのべす

れじんにヤ さんた もむね

Regina Sanctorum omnium

おら ぶろのべす

はんにヨう すめ け とろ すめかた むん はるしゃ のびす どみの

Agnus Dei qui tollis peccata mundi, parce nobis Domine

はんにヨう すめ け とろ すめかた むん じゃおで のびす どみの

Agnus Dei qui tollis peccata mundi

Exaudi nos Domine

はんにヨう すめ け とろ すめかた むん みじりめん のびす

Agnus Dei qui tollis peccata mundi

Miserere nobis

じゃおでの おらッしゃ

exaudi orationem

めんやでかなむるめんよんす

あと びゃおれむす

ad te veniat Oremus

べあてツとろぐるりおざ

Beate et gloriosae

せんぺるぺる

Semper

じみすまりあ

Virginis Mariae

きよみきよみ おんじゅう どむね えんてらせっさー ぐるりおざ のッぽろてがいた とりえでかてる

quaesumus Domine, intercessio gloriosa nos protegat et vitam perducat

とあかいな てん きりすと どみな のす じゃんめ ず べれでて わ どみの びゃ がらっさ

aeternam Christum Dominum nostrum Amen, Jesu Benedecamus Domino Deo gratias

これなり あんめい

Amen

1. どうすばてろ 天にまします

どうす ばてろ われわれん たまい どうす ひりょう われわれん たまい

どうす すぴりと さんち われわれん たまい

天にましますわれらが御親^{おんみや} 御名をもたつとばれたもう

御代来りたもう 天においても おぼしめしなるが如く 地においてもあらせられたもう

我らがにちにちのおんやしないは 今日我らに与えたもう

我らが人に許しもうす如く 我ら科許したもう

我らは てんとうさんに はなし申すことなかりければ 我らは凶悪をのがせ給う

たまいや あんめ ず まりや

2. がらっさ

がらっさ みちみち 給う まりや 御身に おん礼をなしたてまつりて

御主^{おんならし}は 御身と共におわします

女人のなかに おいてもあけても かお よみじなり

又ご胎内は 御身にてまします どうすの御母 さんたまりや

われらは これが最期にて 我らは悪人なれば つつしんでたもう

たまいや あんめ ず まりや

3. まことの信じ奉る

まことの 信じたてまつる 万事叶い給う どうす ばてろ 又そのおんひとりご

いかに おんなら ぜすきりしと これすなわち すべりと さんとのんきどくをもって

宿され給う びるじんまりやに 生まれ給う

ぼんしヨ ぴらしたのとがしたに於ては 呵責^{かしょく}を受けくらい くるーすにかけられ

死し給いて 石の御棺^{みがん}に納められ給う

大地^{たいじ}が底より下り給う 三日目^{さんにちめ}によみがえり給う 天に上がりて万事に叶い給う

おのや けうすのおん右にそなわり給う
それよりのち きたる人も 死したるひとも 糾し給わんために あまくだり給う
すぴりつ さんと まことの信じたてまつることわり かねてましませば
さんた えけれんじゃさんた みなおり とうとようし給うことに
科の御赦しを にくしんによみがえり給う
おわりた命は まことの信じ奉る(あめん)

4. あわれみのおん母

万事叶い給う あわれみのおん母 后こうにてまします御身に 御礼なし奉りて 我らが一命かんめいた
のみを奉りて ろれんとなるような えわなこのみに 御身にかんじんなしをなし奉り この涙のた
みに うみきなして 御身に願いをかけ奉りて これによつて我らが 御とりなしの 憐みのおんま
なこを 我らがめにむかわせ給う
またこの流浪の後 ご胎内は御身にてましますけうすは 我らに見せ給う 深くごにユうように 深
くごあい すぐれてあまくましませば びるじんまりやかな たつときけうすの御母 さんたまりや
きりすての御約束を受け奉りて身となるように給う給いや あんめずまりや

5. 十のまだめんと

けうすの御掟ごおきて 十のまだめんととおのまことなり
mandamento(戒律)

第一 御一体のけうすを万事にこいて ご大切にうやまい奉るべし

第二 たつときみ名にかけ みなちくちくきやすべからず
むなしき誓いすべからず

第三 どめご祝い日は つとめをまもるべし

Domingo(日曜)

第四 なんじが父母に孝行すべし

第五 人も殺すべからず

第六 邪淫なおかすべからず

第七 ちユツとすべからず

第八 人のざんぎもかくべからず

第九 他の妻に恋すべからず

第十 他の宝をみたりに望むべからず

右この十か条は たにか条に きわまるなり

(ただ2か条に)

ひとつは ただご一体のけうすを万事にこいて ごたいせつにうやまい たつとび奉る

ふたつには わが身の如く ぷろーしま思いと 申すこと これなり

proximo「隣人」

6. さんた えけれんじゃの まだめんと

さんた えけれんじゃの まだめんとは 五カ条なり

Santa Ecclesia mandamento

第一 どめご祝い日には みさを拝み奉る

第二 せめて年中1度は こいさん申すべし

Confissao(告解)

第三 ぱすかる ようかのひちやの さからめんとを さずかりたてまつるべし

Pascoa(復活節) Eucharisria(聖体) Sacramento(秘蹟)

第四 さんた えけれんじゃの授け給うとべしに せじた さばた 肉食すべからず

Sexta(金曜) Sabbado(土曜)

第五 れじんすびりすもせ や さすばべし

dizimos primicias

7. 根本七悪

しよざいの こんぼ しちやくのこと

ひとつには^{こつまん}驕慢 ふたつには^{どんよく}貪欲 みっつには^{じゃえん}邪淫 よっつには^{しにん}瞋恚 いつつには^{とんじく}貪食
むっつには^{しつと}嫉妬 ななつは^{けだい}懈怠 これなり これをすべて もりた と申すなり
mortal (死に至る)

8. 七悪に向う七善

七悪のむこう七つの善あり

ひとつには^{こつまん}驕慢のむこう めりやだで ふたつには^{どんよく}貪欲のむこう べらりじゃーでん
humilidade (謙遜) liberalidade (寛容)
みっつには^{じゃえん}邪淫のむこう かすてじゃーでん よっつには^{しにん}瞋恚のむこう ぱっしじゃんで
castidade (貞潔) paciencia (忍耐)
いつつには^{とんじく}貪食のむこう てんぺらじゃーでん むっつには^{しつと}嫉妬のむこう かりじゃーでん
temperanca (節制) caridade (愛)
ななつは^{けだい}懈怠のむこう ふうすのご奉公にする じみじょう これなり
diligencia (精進)

9. さんた えけれんじやの さからめんと

さんた えけれんじやの さからめんとは 七か条なり
ひとつには ぼうつるじま ふたつは こえりまんざ
bautismo (洗礼) confirmacao (堅振)
みっつには ようかのひちや よっつには てんぴんしゃ
eucharistia (聖体) penitencia (悔悛)
いつつは よしたらまんざ むっつには おんれい
extrema uncao (終油) ordem (叙階)
ななつは まちりもみや これなり
matrimonio (婚姻)

10. 慈悲の所作

じっし しよさ じっし
慈悲の所作は十四ある

はじめの七つは ^{しきしん}色身にあたる のちの七つは すぺりとにあたる
Spiritu (靈魂)

色身にあたる七つのこと

ひとつには 飢えたる者に食をあたえること
ふたつは ^が渴したる者にものを飲ますこと
みっつには ^{はだえ}膚を隠しかねたる者に衣類をあたえること
よっつには 病人いとわず見舞うこと
いつつには 難儀なん者に 宿を貸すこと
むつには 囚われの人の身をうくこと
ななつは 死骸をおさむると申すこと これなり
すぺりとにあたる七つのこと

ひとつは 人のいく異見も加えること
ふたつには 道なき者に道を教えること
みっつには 悲しみある者をなだめること
よっつには 折檻する者折檻すること

いつつには ^{ちぢく}恥辱の堪忍致すこと
むつには ぷろしまの不足も許すこと
proximo (隣人)

ななつには ^{しょうじ}生死が人と また あれがとなす者がために ふうすを頼み奉ること これなり

11. びわびらさんさ

びわびらんさ 八つつあり

ひとつには すべりと ねんじょう 天の国も むつつによって べあとなる
Spiritu Beato (幸い)

ふたつは みおわる者は 地を^{しんだい}進退すべきによって べあとなる

みつには なき者は 喜ばすべきによって べあとなる

よつつには じっしんしゃにひかったる人は 飽満^{るまん}させ給うべきによって べあとなる
justicia (正義)

いつつには 慈悲ある人は おんじゅおくりきによって べあとなる

むつつには 心よき人は 御主^{おんならじ}でうすの見奉るによって べあとなる

ななつつには 無事^{むじ}ある人は でうすの御子^{おんこ}とよばれるべきによって べあとなる

やつつには じっしんしゃに対して 辛勞^{しんどう}しのうだしは 天の国をもつつにおって べあとなる

12. 万事叶い給う

万事かない給う でうすをはじめたてまつる いつも びるじんなさんたまりや さんみげる
Virgem Santa Maria Sao Miguel

あるかんじょうをもって さんじゅあんぱちり たつきやぼすとんの さんべとろ さんぱぶる
Archanjo (大天使) Sao Juan Bautista (洗者) Apostolo (使徒) Sao Pedro Sao Paulo

もろもの べあてろ 又 おの ぱてろ 心をもってしわざをもって多く科を犯さること
Beato (福者) Padre

これあやまりなり これ わがあやまりなり これわが深きあやまりなり これによって
でうすを頼み奉る いつもびるじんなさんたまりや さんみぎり あるかんじょうをもって

さんじゅあん ぱちり たつきやぼすとんの さんべとろ さんぱぶる の べあてろ

また おの ぱてろ ころろ ことばのしわざをもってわが為にでうすを頼み奉る あんめーずす
Amen Jesu

13. みじりめで

みじりめで おせこんず まんなみじり こりやんとわ

Misererre mei Deus,secundum magnam miseri cordiam tuam

よつてころんで もろんで とんで ぜらせよねんとわ

Et secundum multitudinem miserationem tuarum

れーれ みきたて めんや あんぴょうろす らら ぶり あべ ぬきたて めんや

dele iniquitatem meam Amplius lava me ab iniquitate meai

よとべかためんや ぬんだべこりやのよのゆきたてめんや

et a peccato meo munda me,Quoniam iniquitatem meam

よこねうすこ ねよ とべかためんや こんつら めしつぶ せんぺら

Ego cognosco er peccatum meum contra me est smper

てれびすおれびすかれびす ゆた まん くらんとて じゅうゆうとせれびす

Tibi soli peccavi,et malum coram te fe ci; ut justificeris

いんせんもれぶす とよすと べのかす く じゅのでかれす いきしにわ

in sermonibus tuis et vincas cum judicaris Ecce enim

よのゆきたてぶす ぼんしょひとつのよとんてかてすぼんしょびつぎ

in iniquitatibus conceptus sum; et in peccatis conepit me

まてろめんや いきせにわに ぶりたいてぶりしゅうじて えせにわたいと

mater mea,Ecce enim veritatem delexisti; incerta er

ぶりとさかえぶしみんとえ まんえたしみじえきあんじえきいずみどみの

occulta sapientiae tuae manifestastimih Asperges me

いずッばいずもんらぶる ららぶるとよ すちぶるびぶる あおでとえめんや

hyssopo et mundabor,lavabis me,et super nivem dealabor,Auditui meo

たぶす かるでわえにてとりしま えにせたぶる おッせあうりせあ

dabis gaudium et laetitiam; et exsu ltabunt ossa humiliata,

はッせとんでかせすみどんす よ どんすどみのみのゆきかてめんや

Averte faciem tuam a peccatis meis; et omns iniqui tates meas

すべりころもどきりやえめ でうすでうすれうすよびとつていのあいろらい

dele,Cor mundum crea in me Deus; et spiritum rectum innova

いねせれぶすみぶす みでらみでさきいねぶす けうす さるてしま
ine visceribus meis. Libera me de sanquinibus Deus, salutis meae
おなしやあおでんとわ ことかてさぶるさきのしゅんれじゅにはたけの
annuntiabit laudena tuam. Quoniam si voluisse sacrigium, dedissem utique
かすてららうてよてうて えさきのじゅんりけうすともう こんちりびやどすこんちり
holocaustis non delectaberis. Sacrificium Deo spiritus contribulatus cor contritum
びやゆられたけうすびすやすに びやいきどみのいごのらんとてとたて
et humiliatem, Deus, non despicias. Benique tac Domine, in bona voluntate
とわッしよにの ぐるりやばてるとよいきあてさんと しくでらえんべら
tua Sion, Gloria Parti er Filio er Spiritui Sancto, Sicut erat
せんべらえぬき しえんべらえね せくろせくろるん あんめ ず
in principio, er nunc et semper er in saecula saeculorum Amen. Jesu.

14. きりやでんず ぱちりのちり

きりやでんず きりすてでんず きりやでんず
kyrie eleison, chrise eleison, kyrie eleison.
ぱちりのちりけせんせりや さんちもせんちものめんつ
Sanctilicetur nomen tuum Pater nosteru qui es in caelis
あすべれやれれんつ わいやおらんだいつ わしくにせりやえんねんてりや
Adveniat regnum tuum Fiat voluntas tua, sicut in caelo, et in terra
ぱんねんな のちりこちりやんのんだ のびすおれでびたのびす でびたのびす
Panem nostrum quotidianum da nobis hodie et dimitte nobis debita nostra,
しくのよつのおつおじんみョうちみョうとッとろびす
sicut et nos dimittimus debitoribus nostris
よねんなしづかにえんねんらしゃえんねんせんらんろさぶもくら あんめ ずす まりや
Et ne nos inducas in tentationem, Sed libera nos a malo. Amen. Jesu, Maria.

15. あめまりあ

あめまりやがらッさどみのでこべれんつつわいつもいりびすよんめよんめつろつべんついつわじぞう
Ave maria garatia Dominus tecum benedicta tu in mulieribus et benedictus fructus ventris tui Jesus
さんたまりやびんごんぱてろでおらのびすべかとろびすのんきんのりやもーしつるしもしつるし
Sancta Maria virgo mater Dei, ora pro nobis peccatoribus, nunc et in hora mortis nostrae,
あんめずまりや
Amen. Jesu, Maria.

(長崎県生月島山田「隠れキリシタン」おらッしゃより)

第 章 諸民族の祈りの唄

A 山田のぐるりよおざ

ぐるりよおざあ あどみぬ
O gloriosa Domina
えきしョうしええら
excelsa super sidera
せでらきくろやんでふるびり
qui te creavit provide,
らあじさくらみりすて
lactasti sakro ubere.
うとおにわちりすてあしたり
Quod Heva tristis abustulit
つれてじゃんのわじゃんのわ
tu reddis almo germine
Tu Regis alti janua

B ガムランのミサ（インドネシア）

いざ、我が物語を聞け
げに学習は汝の心を成長させむ。
すなわち、あらゆる元素の、集合が、
ある種族を生み出し、また滅し、
分離する時、成長して飛散する。
ある時は愛によりて、
すべてのものは、ひとつに集いつつ、
またある時には争いの、憎しみによりて、
それぞれ分かれゆく。
なべてのもの
常に同じ。
良きことなす愛を、汝ら見よ。
愛の姿、心を持て。

（エンペドクレス）

C モホーク・インディアン（カナダ）

Jesus Christus

今日我らがために 都に入り給う
御身の勇猛の御心 分かち給え。

血の汗を流しつつ 祈り給う
謀叛のジューダスの手引きにて 召し取られ給う
御身の綱にて我がアニマ からめ取り給え。
白き衣着せられ 鞭打たれ給う
いばらの冠をかずき くるすかたげ給う
我らも我がくるすかたげ 御後慕いまつる
盗人二人の間に かけられ給う
嘆きの御母マリア 御弟子のサンジョアン
我ら救わんために 命を与え給う。
清き白布もて覆われ 葬られ給う
輝くゴラウリヤを表わし 甦えり給う
御身ともにゴラウリヤの 御世に保ち給え

（『御パシヨンの観念』より）

D ビル族（インド北部山岳地帯）

宇宙はたったの一時間でできた
中性子と陽子と電子がかたまり
それから三千万年
気体は膨張 温度は下がり
巨大な雲ができた
小さな星たち生まれた 縮まりながら
空は光に満ちた
地球に命が芽ばえた
宇宙はたったの一時間でできた
人間を作るのに三十億年

（ガモフ『宇宙の創造』より）

E セレール族『セネガル』

一なるものが世のすべてを作る
一なるものとは何か
英智は一なるものから発する
一なるものとは何か
プシュケーは一なるものへと向かう
一なるものとは何か
それはすべてを生み出す
万有を生み出すデュナーミス
英智を宇宙普遍の生命とする
川の源 泉 あふれる流れを与えても
初めと同じ姿に変わらずとどまる
多くのものの集まりではなく
一なるものとは何か
数えるときの単位でもなく
一なるものとは何か
すべてより大きく 分かつことはできず
何物も望まず 一切を超える
そこで靈魂は憩う
すべての邪悪より逃れて悩みを忘れ
英智に眼を開く 喜びはあふれ出る
二つものものは一つになる
見るものと見られるもの等しくなる時
大いなる静けさあり
我が身をことごとく投げ入れ
一なるものと一つに溶けあう時に

(プロティノス『エネアデス』より)

F コプト教会 (エチオピア)

見よ 神への道は数あれど
神御自身を尊き証拠となして
そのまま神を知るにしくはなし
見よや 凡てに初めを与えた神の知恵を。
神は大いなる船にこれらを凡てのせて
船路ととまりは神の御名により
ついに行きつく先は主のみもと
主のみもととなし給う
初めと終わりは
かくて結ばれ、一つの円となる

(モッター・サドラー『存在認識の道』より)

G シリア教会の聖歌(東トルコ)

存在するものは凡てそのものの内か
または他のものの内にある
そのものによりて考えよ
他のものによらず
一つの原因あれば必ずある結果を生じる
即ち 結果は原因による
結果を識ることに他ならぬ
互いに異なるものは互いに理解しない

即ち 一方の概念は
含むことがない他方の概念を含まない
まことの観念は必ず対象と一致する
存在せずと考えられるものは
そのものの本質が全く存在を含まない

(スピノザ『エティカ』より)

H コプト教会 (エチオピア)
(ヴォカリーズ)

X さん じゅあんさま

ああ 前はな 前は泉水やなあ
うしろはな 高き岩なるやなあ
前もな うしろも潮であかざるやなあ
ああ この春はな この春はなあ
桜な花かや 散るちぢるやなあ
また来る春はな
つぼむ 開くる鼻であるぞやなあ

Y だんじくさま(しばた山)

ああ まえろやな まえろやなあ
ぱらいぞの寺にぞ まえろやなあ
広いな狭いは 我が胸に あるぞやなあ
ああ しばた山 しばた山なあ
今はな 涙の先なるやなあ
先はな 助かる道で あるぞやなあ
ぱらいぞの寺とは 申するやなあ

第 章 華嚴經(十種の光相)

一切世界の微塵は、一一の微塵の中より、一切如来の光明網雲をはなちて、一切世界の微塵と等しく、一一の微塵の中より、一切佛の種々の色光を放ちて、一切世界の微塵と等しく、普く法界を照し、一一の微塵の中より、一切の宝雲光明をはなちて、一切の世界の微塵と等しく、普く法界を照し、一一の微塵の中より、如来の光焰輪雲を放ちて、普く法界を照し、一一の微塵の中より、一切の香雲を出して、普く法界に薫じ、普賢菩薩の所行、一切の大願、諸々の功德海を讃歎し、一一の微塵の中より、一切の日月光雲を放ち、普賢菩薩の光明を放ちて、普く法界を照し、一一の微塵の中より、一切衆生に等しき身雲を出して、相好莊嚴し、佛の光明を放ちて、普く法界を照し、一一の微塵の中より、一切菩薩の身雲を出し、一切行を究竟して法界に充滿し、一一の微塵の中より、一切の宝形像雲を出し、十方一切の世界に充滿し、一一の微塵の中より、一切如来の身雲を出して、一切世界の微塵と等しく、普く一切の甘露の正法を雨らして、法界に充滿す。これを十と為す。

(『十種の光相』巻60、入法界品第34 17その第5)

『宇宙について』全音楽譜出版社、1984年